

令和6年9月 牧之原市議会定例会 行政報告

令和6年市議会9月定例会の開会にあたり、各施策の取組状況につきまして報告いたします。

最初に「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」についてであります。

8月8日に日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震発生に伴い、国は南海トラフを震源とする地震発生との関連性を考慮し、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を発表しました。この発表を受け、市では、地震発生から24時間体制での情報収集や避難所開設の事前準備などの対応を行いました。

地震活動に特段の変化が見られなかったため、発生から1週間経過した8月15日午後5時に、国は南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）発表に伴う「特別な注意の呼びかけ」を終了しました。

臨時情報につきましては、今回が初めての発表でありましたので、市民の皆さんへの周知や、発表後の対応への理解を更に深める必要があるとともに、大規模地震に対する平時からの意識付けの重要性を再認識いたしましたので、引き続き、市民の皆さんの安心安全の確保に繋がる事業の推進に努めてまいります。

令和6年度の海水浴場につきましては、静波海水浴場、さがらサンビーチともに、昨年度と同様に来場者数がコロナ禍前から半減している状況であり、海の家を運営する事業者からは「連日の猛暑で外出を控える傾向があったことや、生活スタイルがコロナ禍で一変し、海水浴へ来る人自体が減っている」という状況と伺っております。

来場者のニーズに合わせた安心安全な海水浴場の運営を図るため、海水浴場運営委員会と次年度に向けた戦略を練るとともに、沿岸部活性化の推進や、交流市町などと連携した誘客促進に努めてまいります。

交流市町との連携の深化に向けては、これまで、海水浴場への誘客やイベント出店による特産品販売などを通じて、友好を深めてきた山梨県甲州市と9月7日に観光交流に係る協定を締結いたします。

甲州市には、令和3年度の竜巻災害の際に、被災者全戸にお見舞いと早期復旧を願いサクラamboを贈っていただくなど、深い関係性を構築しており、令和3年度に中部横断自動車道が開通し、交通の利便性が向上したことに伴い、更なる交流促進を協議する中で、今回の協定締結に至りました。

「伊藤園お〜いお茶杯第65期王位戦」につきましては、第5局にて藤井聡太王位が勝利し、4勝1敗で5連覇と永世王位獲得を果たしました。

本市で予定されていた第6局の開催は実現しませんでした。9月9日には、藤井王位によるトークショーの開催を予定しております。多くの方に藤井王位と交流していただけるよう、準備を進めてまいります。

地域の食材で王位戦を盛り上げ、地産地消の促進を図るため、市内飲食業者から特色あるメニューを募集する「勝負メシ」プロジェクトにつきましては、これまでで最多となるランチ部門 18 品、スイーツ部門 19 品の応募がありました。

応募があったメニューについては、「みんなの推しメニュー」として、市民から 1,500 以上の投票をいただき、8 月 8 日に結果発表会と試食会が行われました。

「勝負メシ」としての提供は実現しませんでした。代替イベントでの活用や市内での消費促進に向けて、勝負メシを 3 店舗で食べた方にまきペイと連動した QR ラリーキャンペーンを行うなど、本市の魅力を市内外に発信するとともに地域の飲食業の更なる活性化を図ってまいります。

また、8 月 17 日には、第 3 回目となる杏林堂杯子ども将棋大会を開催し、市内外から参加した 28 人の小学生が、白熱した対局を繰り広げました。

こうした観光、食、歴史文化などの様々な魅力を国内外に広く発信し、市のイメージアップなどに貢献いただくため、7 月 20 日に 2023 ミス・ユニバース日本代表の宮崎莉緒さんを「静岡まきのはら大使」に委嘱しました。

また、中日ドラゴンズの村松開人選手につきましても、同日に委嘱させていただく予定でしたが、ケガの影響により日を改めて委嘱させていただきます。

本市出身で知名度の高い方に「静岡まきのはら大使」として御協力いただいて、更なる関係人口・交流人口の拡大へつなげるとともに、第 3 次総合計画重点戦略・プロジェクトによる魅力あるまちづくりを、着実に推進してまいります。

「戦略 1 富士山型ネットワークの充実」についてであります。

東名高速道路相良牧之原インターチェンジ北側地区における開発につきましては、土地区画整理事業によって住宅街区約 2 ヘクタールが完成し、仮換地の使用収益が開始されました。

施行地域内の住宅移転が始まるとともに、今後、不動産事業者等によって一部の住宅地の販売等が進んでいく見込みとなっております。また、住宅街区以外につきましても、造成工事に着手しております。

引き続き、保留地取得予定者等と連携しながら、設置される商業・産業施設などの具体化や周辺地域を含めた交通対策の検討などに取り組んでまいります。

道の駅「そらっと牧之原」につきましては、6 月 30 日に起工式が執り行われ、現在、開業に向けて建築工事を行っております。

また、道の駅で扱う商品の開発につきましては、地元の生産者や加工品業者に対し説明会を開催するとともに、指定管理候補者である TTC グループとの個別商談会を順次実施し、地元の特産品を活用した具体的な商品づくりに取り組んでおります。

賑わい創出の拠点として年間を通じた集客が実現できるよう、令和 7 年 7 月の開業に向けて、季節に応じた特産品や加工品の商品開発などを進めてまいります。

食の魅力創出と体験につきましては、8月21日にまきのはらサーフ&ガストロノミーツアー誘致協議会を設立し、関係事業者が連携する体制を構築しました。

今後は、9月にサーフィンや魚釣りなどを体験するプレツアーの開催を予定しているほか、サーフィンやお茶、海鮮料理などを組み合わせた国内外の観光客向けツアーの企画や、プロモーションなどを官民連携で進めてまいります。

本市は、県下2位の生産量を誇るガーベラをはじめ、トルコキキョウ、カスミ草など花の生産が盛んであり、花の会や学校での花づくり活動についても全国的に評価いただいております。

令和7年度には、市制施行20周年と花の会設立20周年に合わせて「花と共に 人と共に 牧之原市」をテーマに、第31回全国花のまちづくり牧之原大会が、5月31日と6月1日の2日間にかけて、開催されます。

8月3日に開催したキックオフイベントは、多くの来場者で賑わい、本大会に向けた気運を高めることができましたので、引き続き関係者と連携、協力して本大会に向けた準備を進めてまいります。

令和7年NHK大河ドラマ「べらぼう〜^{つたじゅうえいがのゆめばなし}蔦重栄華乃夢 嘶〜」の放送開始に向けた誘客の促進と田沼意次侯の検証活動につきましては、牧之原市大河ドラマ「べらぼう」活用推進協議会を中心に、官民連携により、活用事業を進めております。

この取組の核となる史料館につきましては、大河ドラマに関連する展示物の設置や物販販売を行う大河ドラマ展を開催するため、室内の模様替えや椅子昇降機の設置、トイレの洋式化などの改修を今後実施してまいります。

また、8月22日には、「べらぼう」の公式ロゴマークやPRキャラクター「意次くん」などを使用した商品開発の説明会を開催し、商工会と協力しながら新商品の開発を行っております。

大河ドラマの放送を契機に、多くの方が本市に訪れていただくため、農産物やサーフィンをはじめとするスポーツ、歴史文化など様々な取組と連携することで、市内を周遊する仕組みを構築し、更なる活性化を図ってまいります。

次に「戦略2 ゼロカーボンと経済成長の好循環の実現」についてであります。

スタートアップの創出に関しましては、地域資源を活用した新産業の創出による地域経済の活性化を目的として、牧之原市チャレンジビジネスコンテストを実施しており、第3回目となる本年度は、協賛数28社、応募数149社とどちらも過去最大の規模となっております。

現在、募集が完了しましたので、今後、11月7日の表彰式に向け、提出されたビジネスプランについての審査を行ってまいります。

また、前回までの受賞者が、市内での事業化を進めているため、引き続き積極的な支援に努め実現に繋げてまいります。

オーガニックまきのはら事業につきましては、バイオ炭の製造による J クレジットの申請において、プロジェクト登録が完了し、今後、製造されたバイオ炭の J クレジットの登録・認証の審査を予定しております。

また、荒廃農地の収益化事業として力を入れている、転換作物のレモンについては、現在 40 人の部会員で活動しており、部会では、市内茶商や県内菓子メーカーとのコラボ商品の開発を行い、レモン緑茶やスイーツを販売しているほか、クラウドファンディングの実施などを通じて、波乗りレモンのブランディングを進め、認知度の向上と販路拡大に取り組んでおります。

引き続き、農業分野におけるカーボンニュートラルに取り組むとともに、農業所得の向上と新たな魅力発信に努めてまいります。

CO₂の排出量が多い産業部門の脱炭素に向けた取組としましては、令和 6 年度から、中小企業や個人事業主を対象に、省エネルギー診断奨励金制度を設けました。

また、診断後の具体的な設備投資に向けては、本市と包括連携協定を締結している島田掛川信用金庫と連携して、中小企業者の設備更新を支援するとともに、費用負担を軽減する仕組みを構築してまいります。

今後も地域金融機関や商工会などと連携し、中小企業の脱炭素経営に向けた普及啓発や、設備更新の支援などを進めてまいります。

次に「戦略 3 日本一女性にやさしいまちの推進」についてであります。

安心して子育てができる地域医療の体制確保のため、榛原総合病院では、4 月から新たに小児科に常勤医師 1 名を増加し、現在、常勤医師 4 名体制となりました。

これにより、平日は、外来診療に加え、安定的に夕方診療や、夜間救急診療の実施が可能となり、土日祝日の日中も救急対応をするなど、子育て世帯にとって安心安全な医療体制が整備されております。

また、医療体制の充実を図るほか、市では、令和 4 年度から思春期になる前から安心安全で健やかな妊娠・出産・産後の健康管理を行う「プレコンセプションケア」の取組を進めております。

これまで、全ての中学校で思春期講座を開催したほか、20 歳以上の市民を対象に、婦人科健診などの啓発や女性の健康づくりに関する講演会を実施してまいりました。

今年度は、幼児期を対象とした教育などを進め、各ライフステージに必要な知識を啓発しながら、プレコンセプションケアの推進をしてまいります。

市役所では、男性の積極的な育児参加を推進するため、育児休業等の対象となる男性職員に対し、育児参加休暇などの特別休暇や育児休業を積極的に取得するよう働きかけるとともに、制度の活用促進に努めており、今年度は、育児休業の対象となる男性職員 5 人の内 3 人が、既に育児休業を取得しております。

市役所が率先して男性職員の育児休業を促進することで、市内企業の模範となるよう努めてまいります。

女性が趣味や特技を活かしたスモールビジネスの実施を支援する「月3万円ビジネス」の連続講座につきましては、今年度も定員を超える応募があり、現在、2期生がビジネスモデルの創出に向けて受講しております。

明日9月3日には、地域の方々にビジネスモデルを発表するプレゼン大会が行われるほか、講座の最終回となる第6回は、産業フェアに出店し、各自の月3万円ビジネスの実践を行います。

引き続き、当事業などを通じて、地域で活躍する女性を支援してまいります。

人工波の静波サーフスタジアムと、遠浅で緩やかな波が多い自然波のサーフスポットが共存する国内唯一のサーフィン環境を、女性の移住定住に活かすため、「女性限定・牧之原市サーフィン移住体験ツアー」を10月5日、6日と11月9日、10日の2回に分けて、実施いたします。

現時点で、11名の応募をいただいておりますが、女性も安心してサーフィンを楽しめる環境を十分に伝え、本市に訪れ、移住に関心を持ってもらう機会を創出してまいります。

猛暑が続く中、熱中症による健康被害を防ぐため、市では、「熱中症特別警戒アラート」が発表された際に、暑さをしのぐために一般開放される場所となるクーリングシェルターを開設しております。

現在、市内の公共施設やコミュニティ施設など17カ所のほか、ウェルシア薬局株式会社、島田掛川信用金庫、榛原薬剤師会と協定を締結し、民間施設として23カ所、併せて40カ所を確保しております。

また、各施設では、「熱中症特別警戒アラート」の発表時以外でも、暑さをしのぐ休憩場所「涼み処」として施設の一部を一般開放し、熱中症予防対策を進めており、今後も事業所や地域と連携し、更なる熱中症対策を進めてまいります。

次に「戦略4 DXの推進」についてであります。

エネルギーや物価高騰により、大きな影響を受けている市民の消費喚起を促し、売上が減少している市内店舗などを支援するため、7月10日から市内の登録店舗約260店でキャッシュレスによる買い物ができる「まきペイ」がスタートしました。

7月と8月に最大50%のポイントを還元するキャンペーンを実施し、累計約5,500人で総額3,614万円の利用があり、制度の周知を図るとともに、市内における消費活動の促進に大きく繋がったと考えております。

利用者の声を基にシステムの改修を図りつつ、本制度の周知を通じた消費喚起のため、キャンペーン第3弾を9月より行い、利用者や事業者の皆様がより便利で使いやすい仕組みとしてまいります。

生活インフラにおけるDX推進につきましては、現在、AIによる解析を用いた水道管の劣化診断を実施しております。

現状の水道管の情報や、埋設環境、さらに環境ビッグデータと呼ばれる土壌、地質などの地域的なデータと過去の漏水事故との関連をAIに学習させることにより、水道管の劣化度合いを可視化し、将来の漏水確率を予測することが可能となります。

今後は、診断結果を管路更新計画に反映させることで、効率的な管路更新による事業経営の健全化に取り組んでまいります。

申請書に記入することなく、各種手続きを行うことができる「書かない窓口」につきましては、令和7年1月のサービス開始に向け準備を進めており、現在、必要な機材の発注を終え、10月頃には両庁舎のカウンターの改修を行う予定です。

住民票や戸籍証明書の発行など、身近な窓口業務を改善することで、市民の皆さんがサービス向上を実感できるよう取り組んでまいります。

次に「戦略5 次代を切り拓く力を育む新たな学校づくり」についてであります。

相良地域義務教育学校の整備につきましては、7月から学校建設予定地の測量、造成設計、物件の現地調査や不動産鑑定を実施し、8月中旬から地質調査などの各種調査を行っております。

来年度の用地取得に向け、年度末までに造成計画が完了するよう進めてまいります。

榛原地域につきましては、学校施設の基本設計や実施設計、付替道路の予備設計を含めた造成設計及び既存校舎の解体設計を合わせた業務について、3年間の業務委託事業としてプロポーザル方式による業者選定を進めております。

8月1日に委託事業者募集の公告を行い、10月に一次審査、11月に二次審査を実施し選定していく予定です。

両地域ともに新しい学校の開校に向け、着実な事業実施を進めてまいります。

最後に、地域住民や企業、団体などと連携し、諸課題に対してスピード感をもって対応していくとともに、第3次総合計画に基づく魅力あるまちづくりに全力で取り組んでまいりますので、市議会の皆さま、市民の皆さまにも、更なる御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げ、行政報告とさせていただきます。

令和6年9月2日

牧之原市長 杉本 基久雄